

フルカーボンボディに RB26DE型エンジンを搭載し転生

エンジンスワップを施した、「快適旧車」の世界をリードするロッキーオートが、次なるプロジェクトとして追求しているのがカーボンマテリアルによる軽量化だ。旧車はどこまで新しくなれるのか。その答えのひとつになるのが、このハコスカだ。

TEXT : TAKAYOSHI SUZUKI/鈴木貴義
PHOTO : AKIO HIRANO/平野 徳
COOPERATION : ROCKY AUTO/ロッキーオート
TEL0564-58-7080 <http://www.rockyauto.co.jp/>

①ワークスレーサースタイルを象徴する前置きのオイルクーラー。カーボンボディとのギャップが面白い。②フェンダーミラーはドライカーボン製。オーバーフェンダーは実物のセミワークスフェンダーからかたどっている。③ピラーのエンブレムと交換する形で装着するダクトカバー。これもワークスレーサースタイルの重要なディテール。ドライカーボン製で厚みが薄くシャープな仕上がり。④トランク、ウイング、リアコンパートメントと、リアセクションも大半がカーボン化されている。これらのカーボン製パネル類はロッキーオートで単品購入も可能だ。



RE-CARBORN

旧車への高年式エンジンのスワップというカスタムは、すでに1ジャンルとして確立したといっている。なかでもロッキーオートは、あらゆるコンセプトカーを製作し、このジャンルを積極的に牽引してきたショップだが、ついに新作となるコンプリートカーが完成した。

このハコスカのトピックは、何といっても全身をおおう漆黒のカーボンボディだ。近年、旧車用としてもリリースされているカーボンパーツだが、このハコスカは交換可能なボディパネルは、ほぼ全部をカーボン製へと交換。ボンネット、カウルトップカバー、ライトカバー、エプロン、チンスポイラー、オーバフェンダー、フェイセルリッド、トランク、リアウイング、リアコンパートメントがカーボン製となり、カーボ

ン化できないボディ部分などは、カーボンシートを張って調子を整え、「全身カーボン」という旧車らしからぬ驚きのエクステリアを完成させた。

ボディ外装の大半がスチール製ではなく、このカーボンボディ化への貢献も大きい。このカーボンボディだが、ロッキーオート代表の渡辺喜也さんによれば、カーボン化は「軽量化以上にカッコよさの追求」ゆえの選択でもあるとのこと。そのカッコよさの面でいえば、このハコスカはワイドフエンダーを装着したワークススタイルも見どころだ。オーバフェンダーは当時のセミワークスフェンダーからかたどったもので、純正のGT-Rフェンダーと比べてかなりワイド。このワイドボディにホイールをツライチでセットした結果、フロントは10.5J、

リアには13Jという極太サイズを飲み込むことに成功。適度なキャンバーによる踏ん張りの利いた車高スタンスは、まさに迫力の一語につきる。

見た目同様、搭載されるエンジンも凝っている。スワップされたエンジンは、R32スカイライン・オーテックバージョンに搭載された希少なRB26DE型だ。このエンジンは、オーテックの特別仕様車のために用意されたRB26DETT型のNAバージョンで、このハコスカに搭載されているエンジンはさらにS&Sエンジンアリングによるチューンが施されたスペシャルだ。オーテックのレアモデル、そして櫻井真一郎さんが率いたS&Sエンジンアリングの血が入ったエンジンを搭載しているというのは、スカイライン好きにとってもたまらない部分といえるだろう。

軽量化車体と軽快な自然吸気エンジンを組み合わせ、高いパフォーマンスを実現したこのハコスカだが、もちろんロッキーオートでは快適性も犠牲にしていない。もはや同社のコンプリートカーでは定番メニューとなった、オートエアコンと油圧パワステの移植もしっかりと行われ、乗りやすさも追求。またフロントブレーキはロッキーオートオリジナルの、鍛造削り出し4ポットキャリパーへと交換され、安心の制動力を確保している。

見た目はワークスレーサーだが、カーボンボディをはじめ、メカニズムも全面的にアップデート済み。このロッキーオートが製作したハコスカは、新旧のテクノロジーが交差した新たな旧車カスタムのスタイルを示す1台だ。



2



3



1

①セミワークスフェンダーにワイドホイール、引っ張りタイヤと、踏ん張りの利いた迫力の車高スタンス。マフラーは定番の小径デュアル出で、NAエンジンらしい快音を奏でる。②ホイールはワークマスターCR01の15インチ。フロントが10.5J、リアが13Jというサイズで、リアにいたってはレーシングカーのような深リム具合。③フロントブレーキにはロッキーオートオリジナルの4ポットキャリパーキットを装着。車種専用設計なのでブラケットがいらず、ボルトオンで装着が可能だ。鍛造削り出しのキャリパーは切削跡が生々しく、レーシーなルックスとなっている。車高調もオリジナルのフルタップ式を装着。



ダッシュボードはアルミパネルでワンオフ。メーターパネルには各種メーター類が整然と並び、まるでレーシングカーのような雰囲気だ。パネル以外の部分にはカーボンシートを張り込み、エクステリアと雰囲気を統一している。

71年式 日産スカイラインHT 2000 GT (KGC10)

- エクステリア:ロッキーオートオリジナル・セミワークスカーボンバージョン
- エンジン:RB26DE型(オーテックバージョン)/φ87mmピストン(2627cc)圧縮比11.5:1/TOMEI製260度カム/ヘッド面研/燃焼室加工/ポート加工/戸田レーシング軽量フライホイール
- 足回り:ロッキーオート・オリジナル車高調
- ブレーキ:F:ロッキーオート・オリジナルブレーキキット(4ポットキャリパー&282mmローター)
- タイヤ:ピレリCinturato P7 F:225/50/15 R:255/45/15
- ホイール:ワーク・マスターCR01 F:10.5J×15 R:13J×15
- 内装:レカロシート/アルミダッシュボード/オートメーター



4



6



5

④RB26型のヘッドカバーがまぶしいエンジンルーム。しかし排気側にタービンの姿はなく、NA車らしいステンエキマニが見える。エンジンはS&Sエンジニアリングによるチューニングが施され、排気量は2627ccにアップ。フルバランス済みで吹け上がりも気持ちよい。エンジンスワップと同時に、エアコンとパワステも移植されている。⑤ラジエーターはフレックス製で、赤い放熱塗装が施されたコアが見た目のアクセントにもなっている。⑥インテーク部分に装着されたプレートには、「TUNED BY AUTECH」の文字が入り、独特のオーラを放っている。

本来なら2つのタービンが付く排気側だが、このエンジンはNA車ならではのステンレスエキマニを装着。純正で独立スロットルを持つRB26型だけに、エキマニの装着は気持ちよく走る上での大事なポイントだ。



SHOP INFORMATION 攻めの姿勢を崩さない 旧車カスタムの有名ショップ

このカーボンハコスカの前に、すでにS30Zでもカーボンカスタムを製作しているロッキーオート。この2台のコンプリートカーで使用されたカーボンパーツは、通販で購入することも可能だ。気になる人はロッキーオートのホームページにアクセスしてみよう。



エンジンスワップを施したカスタム旧車の製作や販売にとどまらず、イベントの運営やパーツ開発など、常に旧車業界に刺激を与え続けているロッキーオート代表の渡辺喜也さん。

ロッキーオート

〒444-0865
愛知県岡崎市明大寺町字大塚55番地31
TEL0564-58-7080
<http://www.rockyauto.co.jp/>

オートレジェンド2013



主催のロッキーオートブースでは80ページで紹介しているカーボンハコスカをはじめ、ダッジブラザーズ フェードンとロールスロイスのクラシックカーの他、カーボンZ、V8の1UZ型エンジンを搭載したS30Z、ケンメリGT-Rなどを展示。左のモデルは、ステージでバワフルなライブを行ったVelvet Geenaさん。



レイズブースでは自社ホールの他、姉妹誌「ノスタジックスピード」でも連載している、非常にレアなMX41マークIIを展示。装着ホールは旧車乗りの定番TE37V。



タキーズブースでは多数の旧車を展示。ハコスカGT-Rのレースモデルの他、美しく光り輝くホンダS800MやSRL311フェアレディ2000などが並んだ。



スターロードブースでは旧車オーナーに向けて新しくリリースされたメッシュホイール「グロスター」を展示。パッドボイスのインタビューを受けているのは、スターロード社長の井上正嗣さん。



プロフィットブースではロールスロイスをはじめ、得意とするクラウンやセドリック、グロリアなどを展示。奥にはバベットバイク、ホンダDAXも展示されていた。



クラシカ横浜ブースでは、JCCAに参加している74号を展示。その他、ハコスカ、ケンメリを中心にレアパーツがところ狭しと展示。



BBFヤマテでは、自社の技術によって美しく加工されたパーツ類を展示。また、金属加工の実演なども行い、来場者の興味を引いた。



ダディワークスブースでは得意とするエンジンスワップ車を展示。左がエンジンルームから飛び出さんばかりエンジン搭載したサニトラ。右は2JZ型エンジンに換装された260Z。



ワークブースでは旧車用に限らず、さまざまなホイールラインナップを展示・販売。



09RACINGブースには、サニトラにハコスカ風のグリルやオーバーフェンダーを付けた話題の「ハコトラ」を展示。この会場でも大いに注目を集めた。



プリンスクラブブースには67年式のS54スカイラインの3型を展示。消耗部品をデットストックの新品に変更し、エンジンはOH済み。



ピットハウスブースには、美しく仕上げられたS30フェアレディZと75年式ケンメリGT-Rが展示された。



トータルセンプブースは姉妹誌「ハチマルヒーロー」23号に登場したFDの13B-REWに換装したFC3Cを展示。



アメ車と旧車のオーディオ&カスタムショップEASTBALは独自の視点からセンスよく仕上げられたハコスカを展示。緑色の内装が美しい。



F31レパード専門ショップのカーショップフレンドブースには、「あぶない刑事」に登場したゴールドの前前期型とダークブルーの後期型が展示・販売されていた。



Z32フェアレディZ専門ショップのZ oneブースには、Zを後世に残すために蓄積されたノウハウを惜しみなく投入したZ32を展示。



ガレリア・スカースはトヨタ2000GTオーナーズクラブと席を並べてブース展開。正面の特別展示枠にはロスマンカラーのボルシエ962Cを展示。



芸文社もブースを展開。発売直後のノスタジックスピードVol.002と、その表紙車両であるスターロードさんのS30フェアレディZを展示した。



パーツアシストブースにはハコスカ、ケンメリ、S30Z、TE27などを中心としたパーツを展示・販売。TE27も展示されていた。



AUTO LEGEND 2013

ライブとカーイベントが融合した祭典を満喫できた2日間

●2013年9月21～22日/愛知県名古屋市・ポートメッセなごや
TEXT & PHOTO: NOSTALGIC HERO/編集部



ステージではクールズ、横浜銀鯉の他にCHELSEAやYU-YAなどのライブも。野外広場ではガストラックスター、フアンカーの迫力あるエキゾーストノートが響き渡り、音楽、クルマの両方が一度に楽しめるイベントとなっている。

閉会式では4人のレジェンドガールと一緒に、イベント主催である旧車専門ショップ「ロッキーオート」の渡辺社長から、来年のオートレジェンド開催のサプライズ発表。



昨年から2日間の開催となった旧車とスーパーカーと音楽の祭典「オートレジェンド」が、コンテンツを充実させ、9月21～22日の2日間にわたって愛知県名古屋市のポートメッセなごや・第1展示場で行われた。

1日目は、今回のレジェンドガールを決めるレジェンドガールオーディションから始まり、予選を通過した12名がアピールした。そして野外広場で行われたLIVEエキゾーストノートでは、ガストラックスター、フアンカーが爆音をとどろかせる。1日目の締めは伝説のバンド横浜銀鯉のライブ。ドラムの嵐も登場し、会場を1つにした。

2日目はレジェンドガールの発表からスタート。ステージでは、旧車乗りでもあるパッドボイスの2人がお笑いライブで会場を盛り上げる。野外広場ではフォードGTのパワーチェックなどクルマコンテンツも充実。

もちろん最後はクールズのライブステージ。今回はザ・ヴィーナスのコンビさんも特別参加し、ステージ前には閉会式では主催の旧車専門ショップ「ロッキーオート」社長の渡辺喜也さんから、次回開催が2014年9月20～21日と発表。今後も、まだまだ盛り上がり続けるイベントだ。

もはや恒例となった薬師寺モーターズの収録も行われ、各ブースや野外広場に出発した。

クラシックカーを愛する人へ

Nostalgic Hero

Impressive Classic Car Magazine
ノスタルジックヒーロー

注目記事
プリンス愛ひとつに…
S54スカイラインと仲間たち

TOP ARTICLE ● 特集

珠玉のワンオーナー車

The One Owner Car - Coveted Family Jewel

トヨペットコロナ デラックス/スカイライン 2000 GT-A/ランサー 1600 GSL 4ドア/
シビック RS 3ドア/ベレット 1800 GT/スカイラインHT 2000 GT-R/ホンダ N360 TM

Vol. 160

第2特集

サブロク紳士録

360という制限が生んだ傑作軽自動車
360 All the Right Keis!

スバル 360 デラックス/フロンテ 360 スーパーデラックス/
キャロル 360 デラックス/三菱 360 ピックアップ



HOT CLASSIX

カーボンハコスカ

好評連載

日産ワークス20年の歩み ラリー編その3
旧車西方見聞録 シンガポール～マレー半島編
大貴 誠のレディーバードの旅 北海道[後編]
エンジン屋烈伝 林 義正その3

EVENT

第2回日産商用車クラブミーティング
オートレジェンド2013
第2回クラシックカーフェスタ in 金沢 ほか

12

2013 DECEMBER

●次号は2013年12月27日発売予定です